2022.01.20. 木曜礼拝
「起きよ、輝け。」イザヤ書 60 章
JD ファラグ牧師

それでは、こんばんは。週半ば「聖書の学び」へようこそ。木曜日の夜は、聖書を節ごとに学びます。現在、「イザヤ書」です。今夜は 60 章先週、59 章を学び終えました。ほぼ終盤です。信じられます？　今夜終えれば、残すところ、あと 6 章です。 「イザヤ書」の次は、何かご存知ですか？　そう「エレミヤ書」ですよ。ここにあがって来て教えてくださいよ。「エレミヤ書」です。わお～なんというか…イザヤの時もそう言いましたよね。全ての聖書の書についてそう言いますが、「エレミヤ書」を楽しみにしています。非常に非常に興味深い書です。非常に興味深い預言者です。今後、見ていきますが、携挙がそれまでに起こらなければ、学びますが、エレミヤのミニストリーはどんなものだったのでしょうか。彼は愛を持って、また当然ながら、「涙の預言者」と呼ばれています。 良い意味でです。とにかく、祈りましょうか。それから、今夜の聖書の学びに入りましょう。一緒に祈りましょう。

愛する天のお父様。あなたの御言葉と、木曜日の夜、この教会に来ることができるこの時間に感謝します。聖書を開き、私たちの心を開き、学ぶための目を開いてください。主よ、木曜日の夜「聖書の学び」に来る私たちの多くにとって、ストレスやプレッシャー、特に今、世界で起こっている全てを抱えながらの週のうちの 1 つ、そういう日のうちの 1 つです。この聖書の学びは、私たちにとって聖域で、慰めで、休息の場でさえあります。ここに来て、すべてのことを脇に置き、聖霊の助けを借りて、気が散らないようあなたに集中することができる時間なのです。あなたが私たちを導き、あなたの御言葉を通して私たちの人生に語りかけてください。あなただけが御出来になる通り主よ、あなたはいつもそうしてくださいます。そのことをあなたに心から感謝します。主よ、本当に苦しんでいる人が、あなたからの御言葉が必要です。飢え渇いていて、その飢えと渇きを満たすことができるのは、あなただけだと分かっています。主よ、お願いします。懇願します。あなただけが御出来になり、いつもなさることをしてくださるよう切に願います。私たちは、今夜、ここに来たときと違う状態で帰りたいと思います。おそらく私たちは、重荷、試練、挑戦、困難、苦難を聖書の学びの場に持ち込んだのでしょう。ですから主よ、私たちはただ、それをあなたに委ね、あなたのもとに置いていきたいと思います。あなたは私たちのことを気にかけ、愛して下さるので、すべての心配事をあなたに委ねたいのです。主よ、今夜の私たちの時間、あなたの御言葉の中でなさろうとしておられることに前もって感謝します。今夜も、非常に興味深い章が目の前にあります。しかし、私たちの教師であり、導き手である聖霊が必要です。ですから主よ、語っていただけませんか？　お願いします。あなたのしもべが聞いています。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

それでは始めます。私たちの前にある章は、非常に興味深い章で、毎週言っているのは分かってますが、これはイスラエルに関する強力な預言であり、将来的に王国時代に成就するもので、永遠の未来、新天新地の前の千年王国時代に、地上での 1000 年間に成就します。 7 年間の患難時代後の再臨後、それは、、、私は後ろから話してますね。7 年の患難時代前の携挙後、宜しければ早送りしますが、再臨前、千年王国統治前です。興味深いのは、今夜の章を教えるのを楽しみにして考えていたのですが、携挙についてよく話をしましたね。何も悪い事ではありません。天国、永遠、未来、新天新地についてたくさん話しました。何も悪い事ではありません。しかし、千年王国についてはあまり話しませんよね。よく考えてみてください。1000 年という時間はかなり長いです。皆さん、おいくつですか？　1000 年を引いてみたら、その期

間がどれだけ長くなるかです。ところで、今夜の理解に欠かせないことで、王国時代の千年王国に関する興味深い内容を学ぶからですが、それは、地上なのです。罪が入る前の地上の状態なのです。考えてみてください。この 1000 年の間、サタンは底しれぬ所に拘束されます。あまり時間をかけず、さっと 1 つ言います。章に入りたいので。しかし、非常に興味深いのは、大天使ではない、名もない御使いが、降りて行って、サタンを底知れぬ淵へ投げ込むよう言われ、そこで 1000 年間拘束されます。自分でも「マジ？」と思います。名もない御使い。彼はインターン？ だってサタンですよ。 なのにそれだけ？　天国の軍勢が必要ではない。そして間違いなく、神ご自身がそれをする必要ないのですよ。名もない御使いを下界に送り込み、1000 年間、サタンを底なし淵に投げ込むのです。それだけです。それが起こるのです。それが何を意味するか分かりますね？　私たちにとって、ではありません。私たちは栄光の体を身に纏っています。これは、反キリストの刻印を受けず、イエス・キリストを受け入れたわけでもなく、どうにか患難時代を生き延びれた人々に適用されます。彼らは、7 年間の患難時代、特に患難時代後半、言葉にならないほどの恐怖をどうにかして生き延びることができるのです。そして彼らは、獣のしるしを受けていません。その問題は「ヘブル人への手紙」で分かる通り、その人は死にたいと思い、裁きを受けるのが定められています。ですから彼らは、7 年間の患難時代に死なないなら、どうなるのか？　お～彼らは、千年王国に入ります。彼らには肉体があります。これはやり過ぎです。私は皆さんに、神の御言葉を教えています。私の話を鵜呑みにしないで、ベレア人のように、私が話している事が真実かどうか自分で聖句を調べてください。（使徒　17：11 参照）

しかし 聖書に書かれているのは、彼らが子どもを産み、その子どもが子どもを産み、その子どもの子どもが子どもを産み、彼らは同じ肉体を持っています。私たちのような栄光の体ではありません。私たちは栄光の体になり、私たちは、キリストとともに 1000 年間支配統治します。イエスの傍でイエスの花嫁として、栄光の体になっています。それが携挙で起こります。先に、キリストにある死者がよみがえり、新しい体を得ます。それから、生き残っている私たちが、「コリント人への手紙 15 章 51 節と 52 節」で使徒パウロが書いているように、私たちは瞬く間に朽ちるものを脱ぎ捨てます。瞬きする間ではなく、それより速いです。それよりも無限に速いです。古い体を脱ぎ捨てます。それだけでも、それだけでも、でしょう？

外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。（II コリント　4：16）

ですから私たちは、この古い体、この肉体を脱ぎ捨て、この朽ちる天幕を脱ぎ捨て、1 秒の何十分の一の速さで身に纏います。例えを使っているだけです。私たちは栄光の体を身に纏います。それが瞬く間に起こるのです。そして引き上げられ、私たちは、、、私はすでに新しい体への注文をしています。神がその注文を満たして下さるかどうか分かりませんが、私には、永遠に続く栄光の体に欲しいものがあります。髪です。髪が欲しいのです。ー(笑)ー だって、、、私の問題は十分ですね。 携挙で栄光の体を得ますが、7 年間の患難時代、イエス・キリストを受け入れない人たちがいます。彼らは、反キリストのしるしも受け入れません。彼らは 7 年間の患難時代をなんとかして生き延びるのでしょう。そして再臨があって、彼らは、アダムとエバのその肉体のまま千年王国に入ります。それが 1000 年を生きる理由です。

神がアダムとエバに「善悪の知識の木から実を食べた日には死ぬ」と呪いを宣言された時、主にとっての 1000 年、つまり、私たちにとっての 1000 年は主にとっては 1 日のようなものです。彼らは、神がまさに仰った通り、その期間内に死にました。肉体的な死だけでなく、霊的にも死にました。それで彼らは、千年王国に入り、アダムとエバのような肉体です。彼らは子どもを持ち、孫を、ひ孫を、またそのひ孫...

を持ちます。1000 年の間、そして王国時代の終わりにこれは非常に簡単な話です。さほど簡単ではありませんが、十分簡単な説明だと思います。1000 年の終わりに、、、皆さんこれを信じられるかどうか分かりませんが、サタンが解き放たれ、決断の時が来ます。この義、誘惑する悪魔がいなく、強制された義に生きた人たちが、彼らはアダムとエバのようにまだ罪の性質の傾向があり、選択しなければならなくなります。千年王国の終わりに、その期間ののち神を拒絶するのを選択する人がいるのが信じられますか？　彼らは永遠に呪われてしまうのです。千年王国の終わりですよ。ぶっ飛びますよね。それが王国時代であり、この章ではそのことについて述べています。それが、この預言の内容であり、イスラエルに特化したものです。しかしながら、それはクリスチャンである私たちにも当てはまります。特に、私たちが知っている通りこの人類歴史の最後の時に。考えてみれば、ここには類似点があります。これは、バビロン捕囚前のイザヤの時代にイスラエルの民に向けて書かれたものです。バビロンでの捕囚についての預言で、まだ先の未来のことでした。彼らはこの預言を得たとき、人生でかつてないほどの必要性に迫られていたでしょう。なぜなら、これまでも神の民に対する神の裁きについての預言があったからです。主は、バビロンという道具を使って、その裁きを与えようとされます。そうすれば、彼らは主に立ち返ります。その通りになったのです。彼らはこれを聞く必要があります。彼らはこれを知る必要があります。「そう、わたしはあなたがたを裁いた。正義の裁きである。しかし今や、 あなたがたに楽しみがあるのだ。」それを今から見ていきます。深い闇の中、闇の中です。神は仰います。
「よし、今から光の時。世の光は、主が支配し、統治する時、 すべての人が起き上がり、輝くのです。」最後の 1 つですが、まだ最後の 1 つを言うには、もちろん早すぎますが、まだ使い切っていませんからね。さあどうぞ。聖書から由来する格言がどれだけあるか知っていますか？　これはその 1 つ何ですよ。「起きよ。輝け。」ここにあります。盗作と呼ばれるものです。聖書を盗用しているのです。実はある時、現代の格言で実際に聖書から由来するのがどれくらいあるかを検索したことがあります。ある人が数えたら、85 ほどだそうです。「困ったことが起きた。」というのは「伝道者の書」にあります。「起きよ。輝け。」は、ここイザヤ書 60 章にあります。つまり、これらの格言は、すべて聖書から来ています。
驚きますか？　とにかく、これはその 1 つです。　ですから、次に「起きよ。輝け。」を聞けばイザヤ 60 章 1 節を引用しているのですよ。読みます。

イザヤ　60

1「起きよ。輝け。まことに、あなたの光が来る。主の栄光があなたの上に輝く。

2 見よ、闇が地をおおっている。暗黒が諸国の民を。しかし、あなたの上には主が輝き、主の栄光があなたの上に現れる。

そして 3 節、大変興味深いです。

3 国々（異邦人）はあなたの光のうちを歩み、王たちはあなたの輝きに照らされて歩む。

ここで神は、預言者イザヤを通して仰っています。「OK。さあ起きて、輝く時が来た。...光が来る。そう、あなたがたは闇にいました。神の裁きの下に居ました。しかし、あなたがたが起きて輝く時が来たのです。あなたがたの光、あなたがたの救い主、あなたがたの贖い主が来たのです。」皆さん、3 節に注目してほしいのです。これを指摘しなかったら、大失念になると思います。言い方はマズいですが、ある種の興味深い修飾語です。その意味を説明します。「国々（異邦人）はあなたの光のうちを歩み、」と記されています。OK、ここで ユダヤ人と異邦人の区別が自動的にあって、異邦人とはユダヤ人ではない人です。あなたがユダヤ人でも異邦人でも、キリストにおいては、ユダヤ人、ギリシャ人、異邦人、アラブ人、ハ

ワイ人、日本人、中国人など区別はありません。どんな人でも、あなたが何人であっても、ポルトガル人でも、ポルトガル人を忘れてはいけませんね。キリストにおいて区別はありません。しかしここでは、区別があります。問題は、なぜ神は、イザヤに異邦人が光に惹かれてユダヤ人のところに来る、と書かせられたのかです。異邦人だけでなく、王もです。次が私の考えです。これが、置換神学という偽の教えを教えているのです。置換神学が何か知っていますよね？　神はユダヤ人を見捨てられ、教会がイスラエルに取って代わる、という偽りの教えです。どう言えば良いのか分かりませんが、ただ、それだけのことです。しかし、イスラエルを教会に置き換えるなら、この嘘によって深刻な問題を抱えます。例えば、今、悲しいことに、ある教えが広まっています。体が神殿であることと関係があります。文字通りのイスラエルの、エルサレムの神殿ではなく、イスラエルを教会に置き換えるなら、突然、イスラエルがなくなります。代わりに教会になり、神殿をどうするのか？　お～、体を神殿にすればいいんだ。ですから 7 年の患難時代に、神殿はなく、私たちが言うところの第三神殿がありません。そう今や、さらに大きな問題があります。これから読む 60 章で、実際に千年王国には神殿があります。どうですか？　それをどうするのでしょうか？　置換神学の偽の教師方は。お～私の聖書は、患難時代に、反キリストが忌むべきことをし、荒廃をもたらす神殿があると語ります。文字通りの神殿があります。あなたが預言的にプレッツェルをねじ込んでいる理由が分かります。イスラエルを教会に置き換えると、多くの問題に、多くの預言に、沢山の聖句に、対処しなければならないからです。これはその 1 つです。神殿についてはどうするのですか？　じゃあ、それを体にしてしまいましょう。私と一緒に考えてください。もし神殿がないなら、荒廃をもたらす、荒らす忌むべきことは、自分たちの体が神殿なのだから、人間の体になされることになります。違います。残念ですけどね。実際、随分スムーズですね。それは認めましょう。イスラエルに文字通りの神殿です！　神はユダヤ人を見捨てておられませんから。その話には行きませんが、先週言いましたよね？　神はユダヤ人を見捨てておられないと大声で言いましたね。私たちが神に、ユダヤ人を見捨ててほしくはない。なぜなら、神は私とあなたとも契約があるからです。神がユダヤ人を見捨てておられるなら、、、私は簡単バージョンを提供します。もし神がユダヤ人を見捨てておられるのなら、神は私とあなたとも契約を結んでいるのだからどれだけ安心できますか？　もし神がユダヤ人を見捨てて、ユダヤ人との契約を持っておられるのなら、因みに永遠の契約ですよ。前回確認したところ、永遠という意味は、永遠です。意味深ですね。しかし、神はユダヤ人と契約を結んでおられ、私とあなたとも契約を結ばれています。神がユダヤ人を見捨てておられるのなら、あなたはどれほど安心していられますか？ 私たちは、神にユダヤ人を見捨ててほしくない筈です。神はイスラエルにご計画があられます。もう一度言いますね。私がこれを言うのに飽き飽きしないでほしいですが、患難時代の目的は、ユダヤ人国家の救い。これは、置換神学者が持っているもう一つの問題で、大問題です。なぜなら、イスラエルを教会に置き換えると、教会が患難時代にいることになります。だから彼らは、患難時代前携挙の健全な教義を弄ぶようなことをするのです。なぜなら、携挙をどこかに配置するとすれば、 7 年の患難時代に先立つ最初の段階に置くなら、教会が 7 年の患難時代に突入します。それは、7 年間の患難時代の目的ではありません。私たちは既に救われています。患難時代の目的は、ユダヤ人国家の救い。ダニエルの第 70 週です。ヤコブ（イスラエル）の苦難の時です。ヤコブはイスラエル。教会ではありません。私たちに苦難はないのです。イスラエルの苦難なのです。彼らは.....ああ、神よ。7 年/70 週＝最後に、彼らは救われるのです。神は彼らに、それを実現させようとしておられます。そして、その 70 週こそが、その 7 年の期間なのです。イスラエルのため、イスラエルの救いのためです。 これ以上、、、 ほ～先に進まないと、まだ 3 節目

ですよ。もう止めて～

イザヤ　60

4 目を上げて、あたりを見渡せ。彼らはみな集まってあなたのもとに来る。あなたの息子たちは遠くから来る。娘たちは脇に抱かれながら。

5 そのとき、あなたはこれを見て晴れやかになり、心は震えて、喜ぶ。それは、海の富があなたのところに移され、国々（異邦人）の財宝もあなたのもとに来るからだ。

わお～これは、7 年間の患難時代の恐怖後に訪れる、イスラエルの回復、究極の成就です。間違いなく「光の前は必ず暗闇」という言葉を、皆さん聞いたことがあるでしょう。朝、太陽が昇る直前が最も暗い時間帯、光が差し込む直前ですね。これはその原則の 1 つです。患難時代、暗黒の時代は、常に光の前にあるということは、聖典のページ全体に繰り返し出てきます。

6 らくだの大群が、…

OK、やりません。私はラクダが気味が悪いと思っていますし、私はアラブ人ですから、そんな風に思ってはいけないのかもしれません。しかしイスラエルに行くたびに、皆さんや何人かの方が実際に私に尋ねてくるのです。「なぜラクダに乗らないのですか？」私はラクダに絶対に乗りませんよ。千年王国では、栄光ある体ですから、必要ないでしょうが、ラクダは気味が悪いです。気味が悪い動物です。神が創造されましたから、それは分かっています。とにかく、、、次に進みましょう。私の問題は十分です。

6 らくだの大群が、ミディアンとエファの若いらくだが、あなたのところをおおい尽くす。これらシェバから来るものはみな、金と乳香を携えて、主の誉れを宣べ伝える。

7 ケダルの羊もみな、あなたのもとに集まり、ネバヨテの雄羊は、あなたに仕える。これは受け入れられ、わたしの祭壇に献げられる。わたしは、わたしの輝かしい家をさらに輝かす。

これが神殿です。これは千年王国の神殿のことを指していますが、ちょっと待ってください、なぜ神殿が必要なのかという疑問が湧きます。犠牲終わって、贖罪は完了しているのに。「エゼキエル書 40 章（47 節）」に入れば、「エゼキエル書」にたどり着けるかどうかはわかりませんが、入るとしましょう。40 章に入ると、実際には 40 章から 44 章までですが、47 章までに、この千年王国の神殿について、非常に詳しく書かれています。千年王国時代の文字通りの神殿です。キリストが十字架上で成し遂げられた贖いの御業を記念し、祝うためだと多くの人が信じています。完了したのだから、いけにえも贖罪の目的も必要ないのです。しかし、千年王国時代に神殿ができ、その神殿はイエスがされたことへの記念と祝福のために存在すると信じられています。 8 節、

8 雨雲のように飛ぶ者、鳩のように巣に帰る者はだれか。

9 まことに、島々はわたしを待ち望み、タルシシュの船は真っ先に、あなたの子らを遠くから運んで来る。彼らの銀と金とともに。それは、あなたの神、主の名のため、イスラエルの聖なる者のためであり、主があなたを輝かせたからである。

これは、私が「事の背後にある理由」と呼んでいるものです。これは、彼らがなぜそうするのかという意味で、理由は、神はイスラエルにおいて、またイスラエルを通して栄光を得られるからです。イスラエルのためではありません。そうではなく、イスラエルの聖なる方の栄光のためです。最終的に、これは神の栄光のためで、神だけが栄光を得られます。使徒パウロが、コリント人へ書いた手紙を考えます。彼は、自分の肉体の「とげ」と呼ぶものについて、大変率直に語っています。神の設計で特定されていないもので、もし神がこの肉のとげが何であるかを特定する必要があると考えられたなら、私たちは以下のいず

れかをしてしまいます。
A）苦労するようなことではないので、見逃す。もしくは、
B）特定された肉体のとげが何であれ、それに悩む人だけのものである。
ですから 非常に一般的なものになってしまいます。自分の人生に適用し空欄を埋めれますよね。「肉体のとげ」が何であったかについては、様々な意見が事欠きません。もちろん、私がその憶測に加わるつもりはありませんがパウロの肉体のとげの目的は、それが何であれ、パウロが主に完全に頼るようにし、最終的に主だけが栄光を得られるようになさる事だったからです。いかなる肉も主の御前で栄光は受けられません。(I コリント　1：29 参照)
ですから、千年王国時代に神がイスラエルのためにされることは、すべて神の栄光のためです。イスラエルの栄光ではなく、イスラエルの聖なる方のためです。主だけが栄光を受けられるからです。10 節、
イザヤ　60
10 異国の民もあなたの城壁を築き直し、その王たちもあなたに仕える。わたしは激しく怒って、あなたを打ったが、恵みをもって、あなたをあわれむからだ。
あ～この 10 節について、少し話す必要がありますね。主が私たちを訓戒され、躾け、言わば霊的なお仕置きをされるとき、私たちが主の重い御手を誤解すれば、時に大きな過ちを犯します。私たちはそれを、「神が私に怒っているのかもしれない、私を見捨てておられるかもしれない」と理解し、誤解してしまいます。神があなたに怒っておられるのではなく、あなたを見捨てておられるのではなく、愛しておられるのです。これについては「ヘブル書」の学びで話しましたね。
主は愛する者を懲らしめられます。主の懲らしめを軽んじてはいけません。(ヘブル　12：5～7 参照)
それが神の子どもだと分かる方法です。親として他人の子どもを叱ったりはしないでしょう？　お仕置きするからそれが自分の子どもだと分かるのです。他の誰かを叱ることはないでしょう。他人の子どもを叱りたいと思うことはあるかもしれませんが、主があなたを躾けるから、自分が神の子であることが分かるのです。主があなたを愛しておられるからです。 神が愛を示してくださる、別の方法があればいいのですが。親として子どもを叱るときは、いつも子どもに言葉をかけて、子どもがそれを理解するようにしますよね。「これは、お前を傷つけるよりも、私を傷つけることになる」という風に。本当に？
「お互いに傷つかないようにしようよ。さらにお前を傷つけるならこんなことしなくてもいい。」もしくは、これはどうですか？「愛しているからこれをする。愛していなかったなら、こんなことしない。」
と言うと、子どもは「そんな愛してくれなくていい。」「だから そんなことしなくていいよ。」違います。それは、、、こう考えてみてください。あなたが気にしていない誰か。どうなります？　気にしませんよね。一番愛する人、その人たちこそ気にかけます。私たちの天の御父もそうで、それ以上に、無限にそうあられるのです。ですから神は、恵みをもって、彼らを憐れまれます。たぶん今夜ここにいるか、オンラインで見ている人で、あなたの人生に主の重い御手を感じているのではないでしょうか。敵に、あなたに嘘をつかせてはいけません。神があなたに怒っているとか、神があなたを見捨てているという嘘を信じてはいけません。いいえ、神はあなたを愛しておられます。神はあなたを躾けておられます。神はあなたを訓戒されています。神があなたを正しておられます。神があなたの方向を変えておられます。軽んじてはいけません。戦ってはいけません。戦うとさらに悪化しますからね。時間がかかってしまいます。お～何という事。 神が私を躾けられる時、何度そうしたことでしょうか。もちろん、随分昔の話ですよ。私は牧師として完璧ですから。でも、 どこかに稲妻が落ちていませんか？　私は何度、主と戦って、主の

訓戒を不必要に長引かせてしまったことか。私はただ、主が私を訓戒されるのに、任せていればよかった。私は、もっとずっと早く、主の憐れみと恵みの杯から味わえたでしょうに。憐れみとは、神が私たちにふさわしくないものを与え、または私たちにふさわしいものを与えられないことで、恵みとは、私たちが受けるに値しないものを神が与えてくださることだと定義します。皆さんが私同様なら、そうだと思いますが、私は両方頂きます。ありがとうございます。主の恵みと憐れみの両方を。しかし、時に神はその憐れみで、私たちはこのように見たり考えたりしませんが時にその訓戒、躾け、主の重い御手が、あなたの人生での神の憐れみとなります。神があなたに憐れんでおられるのです。11 節、これは大変興味深い記述です。

イザヤ　60

11 あなたの門はいつも開かれ、昼も夜も閉じられない。（その理由は、）国々の財宝があなたのところに運ばれ、その王たちが導かれて来るためである。

12 あなたに仕えない国民や王国は滅び、これらの国々は荒れ果てる。

さらに良くなる感があります。実はそうではありませんが。

13 レバノンの栄光は、もみの木、すずかけ、檜も、ともに、あなたのもとに来て、わたしの聖所を輝かせる。わたしは、自分の足台を栄光あるものとする。

14 あなたを苦しめた者たちの子らは、身をかがめてあなたのところに来る。あなたを侮った者どもはみな、あなたの足もとにひれ伏して、あなたを『主の都、イスラエルの聖なる方のシオン』と呼ぶ。

わお～待ちきれません。これの為にその場にいたいです。私はこれを正しく読んでいます？　つまり、イスラエルを迫害したすべての人々（イスラエルを迫害した人はたくさんいます）イスラエルにひれ伏す時が千年王国時代にやってくるのです。彼らが、あなたの足もとにひれ伏して、『主の都、イスラエルの聖なる方のシオン』とあなたを呼ぶ。先に進む前に、これについての思いつきです。これはちょっと荒っぽいです。言い方はマズいですが。80 年代的な言葉だとは思いますが私には最善なので言います。これは患難時代に、人々や国々がイスラエルをどのように扱うかについて言及しているのではないかと考えられています。「マタイの福音書」で、、、ごめんなさい。正確な章を頭の中で思い出せないのです。皆さんはご存知でしょうが、

「最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。」とイエスが仰る箇所です。

（マタイ　25：40）

あ、7 章だと思いますが、叱責です。彼らがイエスの言葉に驚愕したからです。

『わたしはおまえたちを全く知らない。不法を行う者たち、わたしから離れて行け。』（マタイ　7：23）

彼らは抗議し、こう言うのです。「何を言っているのですか？　我々はあなたの名で悪霊を追い出し、あなたの名で貧しい人々に食事を与えました。あなたの名で奇跡を起こし、これらすべてのことを行いました。」そしてイエスが仰います。「わたしはおまえたちを全く知らない。」それからあと続けて仰います。「最も小さい者たち（ユダヤ人のことです。）の一人にしたことは、わたしにしたのです。」だから、それは可能性があります。分かりませんが、すぐにわかると思いますよ。しかし、ここ、神の御言葉にあるなら、それが千年王国時代に起こるのです。イスラエルを侮った者どもはみな、イスラエルの足もとにひれ伏す。15 節、

15 あなたは捨てられ、憎まれて、（人類史上、地上で最も嫌われている人々）通り過ぎる人もなかったが、わたしはあなたを永遠の誇り、代々の喜びに変える。

16 あなたは国々の乳を吸い、王たちの乳房を吸う。あなたは、わたしが主、あなたを救う者、あなたを贖う者、ヤコブの力強き者であることを知る。
ここ覚えておいてください。
17 わたしは青銅の代わりに金を運び入れ、鉄の代わりに銀、木の代わりに青銅、石の代わりに鉄を運び入れ、平和をあなたの管理者とし、正義をあなたの監督者とする。
18 あなたの国には暴虐はもう聞かれず、あなたの領土には暴行と破滅は聞かれない。あなたは、あなたの城壁を救いと呼び、あなたの門を賛美と呼ぶ。
お～この響きが好きです。ここ大好きです。この言葉は、将来、イスラエルに起こる変革を意味していて、最終的に千年王国で実現されることになります。繰り返しますが、その目的は、神のご栄光のためです。「エゼキエル 38 章」について考えます。これは、まだ未来の預言で、同盟国が戦利品を奪うためイスラエルを侵略する非常に有名な預言です。多くの人が携挙後だと信じています。私たちには分かりません。確実に知ることはできませんが、「エゼキエル 38 章」には、将来的に、ロシア、イラン、トルコ、この同盟国が、 お～そういえば、先週のニュース速報。皆さん聞きましたか？　ロシアとイランが、中国と一緒になって軍事的に、、、お～なんと、、、それって、、、時計を見ないでください。お～時間があれば話すのに。OK。ほんの 2、3 分、いいですか？　ー(笑)ー　皆さん、そのニュース聞かれたでしょう？
イエスは仰いました。
「戦争や戦争のうわさを聞くことになりますが」（マタイ　24：6）
それはただ…もしもーし！　ウクライナは？　頼みますよ。最近、地図を見たことがありますか？　それが何なのか知っていますか？　OK。帰宅したら、地図を見てください。位置を見ると、実に滑稽ですね。ここにイスラエルがあります。つまり、吹き飛ばさなければならないのです。皆さん、イスラエルが小さすぎないようもっと解像度の高い描写をしてください。イスラエルは、こんな小さな、ちっちゃな一片です。そして巨大なロシア。でっかいイラン。これら全同盟国が、エゼキエル 38 章の預言に古代の名称でリストアップされています。彼らは連合して、北からイスラエルに攻め込みます。自分でもそう思いますよね。おっお～ロシア、イラン、トルコが、ちっぽけなイスラエルに襲いかかる。彼らは”破滅”。大文字です。大惨事です。 ゲームオーバーです。からかっているんですか？「しかし、神は」です。「エゼキエル 38 章」のこの預言の最後で、神はこう宣言しておられます。ところで、これは聖書全体に言えます。神は仰います。「わたしがします。わたしがこれを。」とてもゆるい言い換えですが。しかし、基本的にこう仰っています。「わたしがやります。任せて！」彼らは壊滅的な敗北を喫し、迅速に起こります。聖書学者や解説者の中には、それが約 24 時間の間にされると考えています。イスラエルではなく、この同盟国がイスラエルを侵略すればゲームオーバーです。彼らがイスラエルに向かってきたら、神は仰います。「わたしがします。わたしを見ていなさい。」そして神が、彼らを敗北させ、滅ぼされます。壊滅的な敗北です。決定的な敗北という意味です。ミスはありません。質問も何もありません「うーん、もしかしたら、それって。」違います！「ああ、でもイスラエル国防軍かな？」違います！「でもイスラエルは非常に国防力があるから。」違います！　理由が分かりますか？「わたしがしたからです。」
「その時彼らは、わたしがあなたがたの神、主であることを知る。」（エゼキエル　38：23）
それが理由です。「つまり、わたしがすべての栄光を手にし、わたしの手柄なのです。あなたがたが望んでも得られません。試みたとしても、わたしが一人でやったことをあなたがたの手柄にはできません。なぜなら、わたしだけができることに対し、わたしにすべての栄光があるからです。あなたがたにはそれが

出来ません。からかっているんですか？　この巨大な同盟に対して？　これは 仕掛けられたものですよ。わたしが、彼らがそうするのを許しました。わたしが自分を知らしめるために。」それがここで神がなさる事です。皆さん、この「あなたの城壁を救いと呼び、」について少し話していいですか？　城壁の名前は？　ー救いです。そして門？門の名前は？　ー賛美です。私はこの２つの言葉が好きです。救いと賛美。繰り返しますが、私たちは、まだ先の未来の預言について話してますが、よくよく考えてみると、これは今の私たちにも当てはまります。なぜそう言えるか話します。私たちの家や人生への城壁が救い、私たちの家や人生の門が賛美と呼べます。無駄や破壊がありません。なぜなら、敵は盗み、殺し、大きく滅ぼすためやって来ます。敵は私たちの結婚を滅ぼしたいのです。敵は私たちの家族を滅ぼしたいのです。敵は私たちの子どもたちを滅ぼしたいのです。敵は私たちの教会を滅ぼしたいのです。特に敵は、クリスチャンの結婚を憎んでいます。理由を知っていますね？　クリスチャンの結婚が表現することのゆえに。子羊、花婿のイエス・キリストと、花嫁の私たちが結婚することの縮図で型でもあります。敵は憎んでいます。ところで、彼がクリスチャンの結婚とそれに伴うクリスチャン家族、クリスチャンの教会を嫌う理由は、天国での私たちの関係の縮図だからです。私たちは、キリストにある兄弟です。そんな風に考えたことはありますか？　その一言だけで、全体の様相が変わります。
「なあ、私たちはキリストの兄弟姉妹だ。アーメン、兄弟！」と言えば、「私たちはキリストの兄弟姉妹。」なるほど、かっこいいですね。しかし「おい、俺たちは兄弟だぜ」と言われると？　だからこそ、キリストの体には兄弟喧嘩があるのかもしれません。神の家族が。でもそれが天の御父との関係の縮図でもあります。私たちは神の子どもです。 私たちはキリストの花嫁です私たちはキリストにあって兄弟です。だから、敵はクリスチャンの結婚、クリスチャンの家族を嫌うのです。思うに、敵が家族を破壊することに成功していることを見れば、それ以上のことはないでしょう。敵は、その人間を選びます。それが "的”です。羊飼いを叩き、羊を散らす。敵がその男、その家長を得れば、家長とは、古い言い回しですね。この人が家長です。「私は、家長。私が家長だ。家で私に主導権があるのだ。」家内がどっちを選ぶべきかを教えてくれますけど、それでも私が家で主導権があります。「私が家でかしらだ。」 もちろん、家内が首で、彼女は私に方向性を教えてくれますが、「私がかしらです。家長です。」サタンは頭を狙って来ます。どれだけの家族が破壊されたでしょうか。なぜか？　理由は、城壁が救いでなく、門が賛美でなかったから。その家がカモにされたのです。こんな嫌な話でひっくり返すつもりはありませんが、事実です。
だからこそ、家庭内の霊的リーダーは男性なのです。私たちは、男としての自覚を持つべきです。そのフレーズを使うことをお許しください。私たちは、男としての自覚を持つべきです。私たちがリードしなければなりません。リードする、を定義させてください。繰り返しますが、男性方、よろしいですか？　非常に重要です。最後まで聞いてください。こう言うのがリードする事ではありません。「おい、ついてこい。俺がこの家のかしらだ。」悔い改めの道へ導く、先頭に立ってみませんか？　霊的なリーダーとなって、家族を十字架に導くのはどうでしょうか？「自分たちがリードしたい私たちは家長なのだから。」しかし、それは、霊的にリーダーであることとは違います。あなたが霊的なリーダーシップを取り、家族を主に、主の事、主の道に導くのです。何が悲しいかというと、話が逸れたくありませんが、もう１つだけコメントしておく必要があります。霊的なリーダーであるべき夫が、家庭内でのリーダーシップを放棄し、妻にその役割を押し付けるのは、本当に悲しいことで残念だと思います。彼女は、そのために召されておらず、また、言葉は悪いですが、そうするよう設計されていません。それは、神が彼女に与えたものではありません。神はそれを男性に与えられました。因みに、これは園の話に戻ります。公平を期すため

にも、これを議論にするべきでしょうね。繰り返しますが、呪いが宣告され、女の労苦が増えると宣言された時、神はエバに「子を産むときの苦しみが増え大きくなる。」と仰いました。そして、女へのもう1つの呪いの宣言は、

「お前は男を恋い慕う。」（創世記　3：16）

私がまだ若いクリスチャンだったとき、思いました。「かっこいい～！妻が私を夫として恋い慕うようになるんだ。」そう言う意味ではありません。どういう意味か分かりますか？

「あなた（女）は夫のリーダーシップを奪いたいと思うでしょう。」

聖書で、男性がリードしていないのに気づくと、神は女性を起用されます。神は女性を育てられますが、それは男性への非難です。それは男性への非難なのです。どこに男がいるのか？　どこに男がいるのか？この教会について話しているのではありません。日曜日の「ヘブル書」の学びに来られている方は、分かっておられると思います。神は私の心をご存知です。なんというか大変、、、甘えという言葉を使います。皆さん、この教会の牧師である私を甘やかしています。この素晴らしい、愛に満ちた教会の牧師であることはとても光栄です。皆さんは本物です。とても喜ばしいことです。皆さんがそういう牧師にして下さっています。大変嬉しいです。そう言える牧師は大変少ないです。私はその1人です。皆さんにそのことを感謝します。そうは言いながら、この教会ではなく、ある教会に対する悲しい告発です。男性がいないので、女性が教会で指導力を発揮しなければならない時。リードしてくれる男性がいないためです。女性が何をしているかというと、彼女たちの心を祝福します。しかし、男性がすべきことを女性がしているのです。それは家庭だけではなく、教会でも同じです。これは悲しいコメントだと言わざるを得ません。女性にはその霊的な覆いが必要なんです。それが、神が女性を創造された方法です。男性である私たち、夫である私たちが頭なのです。まいりますね。「コリント人への手紙」の時はどうでしたか？　7章のことをもう一度言いたいです。コリント人への手紙を節ごと学んでいた時、一緒にいた方は、私が今までに教えねばならなかった中で最も難しい教えの1つだったと思います。人間の指導的地位に関わることです。そして「エペソ人への手紙」に行くと、別のものがありました。聖書の一節一節を教えるのは、やめたいと思ったこともありましたね。使徒パウロが「妻たち、夫に従いなさい。」という時、ご婦人方。5章22節を除いては、難しい教えでしたが22節の前に何があるか知っていますか？　深遠なのは分かっています。22節の前は、21節です。21節が何を語っているか知っていますか？「互いに従い合いなさい。」お～それって、ゲームチェンジャーです。ここで私の考えです。このことについて、すべての教えに触れたくはありませんが、これはとても重要です。主に従っている男性がいれば、その男性に従う妻も見つかります。主に従っている男性を見つけたら、キリストが教会を愛し、自分を捧げたように、自分の妻を愛している男性を見つけるでしょう。私が結婚式をするときは、必ず最初にお2人の許可を得るようにしています。何度か問題になったことがありますが、よく使う箇所は、エペソ人への手紙5章です。パウロは、男性に3回言います。

「夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。」（エペソ　5：25）

「自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。」（エペソ　5：28）

自分の体を愛さない男性にはまだ会ったことがありません。いつも窓に写して自分の体をチェックし、見とれています。パウロは3回言うのです。「妻を愛しなさい。」それから妻に対しては、1度だけ、しかも4語です。

「妻たち、夫を敬いなさい。」（エペソ　5：33）
ええ、4 語だけです。本当に？それだけ？　待って。あなたは 3 度も、男性に仰って、打ちのめしましたよ。「妻を愛しなさい。妻を愛しなさい。妻を愛しなさい。」で、妻たちには、「夫を敬いなさい。」だけ？「平等じゃない！正しくない！ちょっと待ってよ！」いいえ。また、パウロは次のように言っていないことに留意ください。「妻たちよ、夫を愛しなさい。」それが問題なのではありません。そうではなく、妻は夫を尊敬しなければなりません。それが問題なのです。なぜなら、自分を愛していない夫を妻が尊敬することはないからです。なので責任は夫にあります。そんな風に妻を愛する夫を見せてくれたら、夫に従い、夫を尊敬することに問題のない妻を見せましょう。それは夫として望むことではないですか？　妻には自分を尊敬してもらいたいものです。敬意を示してください。じゃあ、愛を示してよ。じゃあ、敬意を示すから。ー(笑)ー　すると夫の方は、「じゃあ、お前が私を尊敬するまで、お前を愛さないぞ。」
そうは機能しません。残念！　3 回記されています。3 回。妻を愛しなさい。妻を愛しなさい。妻を愛しなさい。夫に「妻を愛しなさい」と 3 回言うまでは妻に夫を敬えとも言いません。パウロが言っているのは、聖霊によって、あなたが妻を愛せば、妻はあなたを尊敬するということです。これが、神が女性を創造された方法です。そして、その責任は、男性にあります。今、罪を示されましたので、先に進んで締めくくります。19 節、
イザヤ　60
19 太陽はもはや、あなたの昼の光とはならず、月の明かりもあなたを照らさない。主があなたの永遠の光となり、あなたの神があなたの輝きとなる。
それがあります。再度、「黙示録」と一致しています。これは奇妙なことで、多くの人が気になっていると思いますが、私たちにはもう太陽がありません。紫外線は？　ありません。天国を何が照らすか知っていますか？　主です。奇妙なのはわかっています。特にハワイにいる私たちにとって、太陽がないなんて。さらに悪くなるのは、海がありません。海がないの？　どうやってサーフィンすればいい？　じゃあ、千年王国の道から出て、サーフィンをしていればいいのです。しかし、永遠の未来には新天新地で、海はありません。太陽はありません。イエスが光なのです。あ～それがどのようなのかは、すぐに分かりますよ。天国にで、こう仰る人はいないと思います。「ああ、太陽があればいいのに。」そうつまり太陽の光を浴びることになります。「私たちには主がいる～！！！イエスが天国を照らす～！！！」20 節、
20 あなたの太陽はもう沈むことがなく、（それって良いことですよね。太陽がないから、サンセットがない。）あなたの月は陰ることがない。主があなたの永遠の光となり、あなたの嘆き悲しむ日が終わるからである。
M-O-U-R-N-I-N-G=嘆きが、終わるからである。21 節、
21 あなたの民はみな正しい者となり、永遠にその地を所有する。彼らは栄光を現す、わたしが植えた枝。わたしの手で造ったもの。
皆さん、神の栄光の話は聞き飽きましたか？　そうでないことを願います。ここにあるからです。
『わたしが（キーワード）栄光を得るためである。』
22 最も小さい者も軍団となり、最も弱い者も強国となる。…
そして、この章の終わり方です。このことについて少しお話したいと思います。
…わたしは主。時が来れば、速やかにそれをする。」
何ですって？　待って。どういう意味？なんだか不思議な約束ですね。「速やかにそれをする。」？　分か

りました。スピードアップするということですか？　促進するのですか？私はそれに賛成です。だって、私たちは何度も祈ります。 毎週日曜日「預言・アップ」後に祈ります。「主よ、早く来てください。急いで来てください。遅れずに、来てください。昨日来てくださってたらどんなに素晴らしかったか。」ですからこの意味は何か？　はい、このことは、よりよく理解できます。”その時が来たら”　修飾語です。”時が来れば”　神はそれ以上遅れられることはない。その時、神は、その時が来れば、急いでなさいます。このことを「伝道者の書」で考えます。あの有名な節を覚えていますか？　私たちはそれを歌い、知っています。

「神のなさることは、すべて時にかなって美しい。」（伝道者　3：11）

神の時は、神が完璧だから、完璧なのです。神は遅れることはなく、早過ぎることもないと言われています。真実は、私たちは神に早くしてほしくないのです。神のタイミングは常に完璧です。ですから、預言者イザヤを通してここで神が強調しておられるのは、神の時は完璧で、時が来れば、神の時が来れば神は「よし、やろう」と仰るのです。速やかにそれをなさるのです。なぜなら時が来たからです。これ以上、遅れるわけにはいきません。もう時が来たから。時が来たら、終わりです。神がなさいます。私たちにとっての適用とは何か？　最後はこれで締めくくります。今の私たちにも当てはまりますね。このような約束ができる時代になったのです。

私たちには、その日その時は分かりません。（マタイ　25：13 参照）

もうすぐで、近いのは分かりますよね。そうなのです。からかっているんですか？　つまり、起こっていることすべてとその速さに目を見張るものがあります。バカげた言い方かもしれませんが、私はコストコに行くと、青いバナナを買わないようにしています。熟して食べれる時まで、私がいるかどうかは分かりません。ー(笑)ー　バカげた例えだと言ったでしょ。でもポイントは分かりますね？　それほどまで、時が来れば、速やかに起こるのです。その時が来れば、終わりです。私たちはここから出て行きます。 ここから出て行きます。　遅れることはありません。待ちきれません。主よ、早く来てください。ご起立ください。カポノが上がってきて締めくくります。私は祈りで締めくくります。皆さんを励ませたと願います。 私は励まされましたよ。お～なんということ。これを伝えるまでに、自分のものにしました。自分のものにしていないことを誰かに伝えることはできません。ここに上がり教える前に自分のものにしました。時に、それって良い事ですね。なぜなら、このことを本当に分かることができるからです。そしてここに上がって教えるとき、こんな風になります。「これを分かち合うのが待ちきれない！」大変励まされるからです。これが当時のバビロン捕囚の彼らにどれほどの励みになったか、想像してみてください。その時、神が彼らに、この約束、この預言を与えられたのです。「時が来た。起きよ。輝け。光がやって来た。」

祈りましょう。 天のお父様。ありがとうございます。主よ、この章が、当時のあなたの民にそうであったように、私たちを励まし、強めるために必要な効果をもたらして下さることを祈ります。このような楽しみがあると知ると、どんなことも乗り越えやすくなります。なぜなら、時が来ればこれが起こり、すべてあなたの栄光のためになるからです。主よ、私たちは言います。マラナタ。主イエスよ、早く来てください。主よ、来てください。早く来てください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ

http://www.calvarychapelkaneohe.com/

Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii　　筆記 hukuinn7